

みんなのため、自分のため

福岡市立壱岐中学校3年 安河内 歓晴

私は、中学一年の春に入院した。病名は「類骨骨腫」というものだった。背骨に発生した腫瘍を取り除くための手術をした。手術前の眠れない病院の夜と麻酔の副反応によるこれまでに味わったことのない吐き気、そして、数日続く術後の背中への激痛は、目を瞑れば今でも僕の体と心に鮮明に残っている。

小学校の頃から、学校で健康診断がある度に「背骨が曲がっている。」と言われ、病院を受診していた。結果は、「姿勢を正しくしましょうね。」という経過観察であった。しかし、大好きなサッカーをしても痛みを感じるようになり、大きな大学病院で診察してもらい、病名が判明したのだった。

入院中に母親が毎日、お見舞いに来てくれていた。ある日何気なく「入院と手術でお金はいくら必要なのかな？」と聞いてみた。「一二〇万！」僕は想像をはるかに超える金額に驚いた。「本当は一二〇万円だけど高額医療制度というものがあり、数万円で済むのよ。心配しなくて大丈夫よ。」と母親は言った。僕はとてもほっとした。誰がお金を補助してくれたのか気になり、いろいろと調べてみた。その秘密は「税金」であった。

私たちが納めた税金は、身近なところで使われている。一番多く使われているのは「社会保障」にかかるものだ。「社会保障」とは、私たちが安心して健康にしていくために必要な「医療」「年金」「介護」「福祉」などの国や地方がする公的サービスのことである。具体的に調べてみると、かぜを引いたり、けがをしたりして病院で手当をしてもらおうとお金がかかる。かかった金額の一部には、税金が使われている。また、老後も安心して暮らしていくために国から受けとるお金（年金）の一部には、税金が使われている。さらに、年をとって体が動かなくなり介護サービスを利用する金額の一部にも税金が使われている。

「税金」について調べてわかったことは、わたしたちが社会を生きていく上でなくてはならないものであるということだ。「もし、学校で健康診断がなかったら？」「町の病院で診察してもらえなかったら？」「大学病院で手術してもらえなかったら？」今の私はないのである。

「税金」と聞くと払わされるものというマイナスのイメージがある。しかし、多くの人から集められた税金がどのように使われているのかという視点から考えると、プラスのイメージに変わる。多くの事柄に税金を払っているが、その多くの税金が多くの人々の健康や生活を守るために役立っている。我が国の税制度とは、みんなが助け合い、協力することで存在するものなのだ。

私は、現在、思い切りサッカーをすることができている。今、感じている感謝の気持ちを忘れないでおこう。そして、将来、就職して働くようになったときには、きちんと納税して、明るい社会に貢献していきたい。